



Serendipity Interview in GOOF Busan

釜山・田浦洞に息づく自由の聖地 : Cafe & Bar「GOOF」

釜山の田浦洞カフェ通りに位置する「GOOF（グーフ）」は、昼夜を問わず、ヨーロッパやニューヨークのような異国情緒あふれる空間を提供している。ここは単なる飲食店ではなく、日常生活や職場などの外部環境から押し寄せるプレッシャーやストレスから解放され、真の「自由」を享受できる稀有な場所である。

カン・ホヨン氏の歩み

「GOOF」の共同創業者であり、現社長のカン・ホヨン氏は、幼少期から好奇心旺盛で、強いチャレンジ精神の持ち主であった。自営業を営んでいた父親の影響もあり、早くから「自分の店を持つ」という夢を抱いていた彼は、20代で青年実業家として競争の激しい飲食業界に飛び込み、着実に実績を積み上げて高い評価を得た。しかし、歳月の経過とともに、同業他社との過酷な競争に疲弊し、違和感を抱くようになった。彼はそのプレッシャーから解放され、自身のありのままの姿と存在価値を見つめ直すため、ポルトガルの首都であるリスボンに留学した。彼はリスボンで大好きな海を眺め、自由と開放感を満喫しながら約1年間滞在した。その時に得た多様な人々との出会いや経験が、現在の「GOOF」の原型となるコンセプトを生み出したのである。

「GOOF」という名に込められた意志とメッセージ

カン・ホヨン氏は2020年、リスボンでの開店を目前に控えていたが、コロナ禍という予期せぬ事態により帰国を余儀なくされた。帰国後、同年12月、友人と共に釜山で「GOOF」をオープンさせた。店名の「GOOF」には、「周囲から間抜けに見られようとも、他人の視線に惑わされることなく、強い志を持って自分だけの道を切り拓く」という意味が込められている。店舗のデザインや雰囲気からは、「自由と開放感を楽しむ人生を大切にしたい」という彼の哲学と世界観が色濃く反映されている。このマインドセットは、時代の変化に左右されない普遍的な価値を持っており、国境や人種を超えて多くの人々の共感を呼んでいる。

また、店内に流れるBGMは特定のジャンルに固執せず、その日の時間、天気、客層に合わせて、LPで流している。我々が訪れた際は、ソウルやR&Bが流れていた。かつて黒人たちが抑圧に対して自由を熱望したその旋律は、不確実な現代社会でストレスを抱える人々に、解放感を与えてくれる。紆余曲折を経ながらも、彼が縁も所縁もない釜山という地で5年以上にわたり店舗運営を継続できている最大の要因は、コーヒー、音楽、酒、海といった自身の嗜好を訪れる人々と共有することにある。短い対話を通じて彼から学んだのは、以下の3点に集約される。

第一に、人は生涯を通じて没頭できる「真に好きなもの」を見出すことの重要性である。第二に、その「好き」を磨き続けることで差別化された強みへと昇華させ、経験や直感、洞察力を活かして独自の価値創出を実現する必要がある点である。第三に、彼が創り出した「GOOF」という場の世界観を通して、不確実性と激しい競争社会を生きる現代の人々に自由と開放感を楽しむことに加え、「ありのままの自分」を取り戻す活力を与える点である。

韓国のカフェ文化

韓国は「カフェ共和国」と呼ばれるほどカフェ激戦区である。韓国人はカフェ文化を韓国風アレンジし、韓国ならではの新たなカフェ文化を形成・発展させた。しかし、韓国のカフェは、年々その流行（トレンド）の移り変わりが加速化して、空前のヒット商品や人気カフェが閉店することも日常茶飯事である。韓国では2014年以降、カフェの店舗数が急増し、生き残りのためにSNS映えする空間デザインや奇抜なメニュー、いわゆる「空間消費」への対応が常に求められている。韓国のカフェ文化がこれほどまでに変化に敏感な理由は、主に以下の5点に集約される。

- ① SNSの影響力：Instagram等、SNSでの「映え」や「口コミ」が成否を分ける。
- ② 参入障壁の低さ：食事メニュー中心のレストランに比べ、開業しやすいため、韓国の街中でカフェが溢れる「カフェ戦国時代」となっている。
- ③ 第3の空間：カゴン族（カフェ+勉強）や仕事、交流の場として、コーヒー以上の価値を求める文化。
- ④ ローカル・リノベーション：聖水洞や文来洞のように古い工場をリノベーションした個性的な空間がトレンド。
- ⑤ 独自の進化：伝統と現代を融合させた、韓国独自のメニュー開発。

流行を超越するブランディングと「GOOF」の価値

多くのカフェがトレンドを追い、短命に終わることも珍しくない中で、「GOOF」は一線を画している。時代の変化やトレンドに左右されず、異国の雰囲気や世界観を味わえる。また、日常生活でのさまざまな出会いや複雑な人間関係、そして仕事などにより生じるプレッシャーやストレスから解放される自由を楽しめる「GOOF」には、いかなる時代にも適用可能な普遍的価値があると改めて感じた。

「GOOF」は、過剰な広告や派手なビジュアルに頼るのではなく、来店客自身が「ブランド・アンバサダー」となり、自発的にその体験やカン氏の人生哲学をSNSで発信している。実際に訪れた客からは、以下のような高い評価が寄せられている。

- ① バジルシェイクのカクテルのような、他では味わえないユニークなメニュー。
- ② 人の目を気にせず、視覚・聴覚・味覚のすべてを満たせる感覚的な空間。
- ③ 知識豊富なオーナーによる丁寧なコーヒーの説明。
- ④ ターンテーブルから流れるLP音楽が織りなす、高揚感と開放感。

「GOOF」に集う人々は、流行に流されすぎない「自分らしさ」と、洗練された感性を持ち合わせている。時代の波に左右されないこの場所には、現代人が真に求めている「自由」という普遍的な価値が、今も息づいている。



"THE BEST LOCAL SPOT IN BUSAN"

GOOF

